

6. 養殖水産動物保健対策推進事業費

1) 養殖水産動物保健対策推進事業

山本充孝・二宮浩司

【背景】本県ではアユ養殖を中心にマス類、コイ類の淡水養殖業が発展してきているが、魚病の被害が依然多発している。

【目的】養殖業における魚病被害の軽減と予防を図り、養殖経営の安定化と安全な食品生産に寄与する。

【成果概要】

1. 全国魚類防疫推進会議（10月20～21日、3月12日）
 2. 滋賀県魚類防疫会議（6月19日）
 3. アユおよびニジマスのピブリオ病に係る防疫協議会（6月19日）
 4. 魚類防疫講習会（10月16日）
 5. アユの冷水病関係地域対策合同検討会（11月19日）
 6. 平成10年度魚病指導総合センターにおける魚病診断状況（表1）
- ① アユ：平成10年度の診断件数は111件と昨年度の80件と比べて増加した。
冷水病やシュードモナス病が多く診断された。両疾病の診断件数は、混合感染を含めると81件となり、全体の73%を占めた。
- ② コイ・フナ類：平成10年度の診断件数は7件で、昨年度とほぼ同数の診断件数であった。トリコディナ症やカラムナリス病等が診断された。
- ③ マス類：平成10年度の診断件数は24件と昨年度の14件と比べて増加した。
ウイルス性疾病、せつそう病が多く診断された。

7. 医薬品残留総合点検

簡易検査（水産試験場で実施）

アユ： 20検体＝7業者（残留抗生物質検出せず）

ニジマス： 12検体＝4業者（残留抗生物質検出せず）

【成果の活用】魚病発生時に原因の究明、薬剤感受性等魚病診断を実施し、その結果を速やかに伝達することにより魚病被害の軽減を図る。

滋賀県魚病指導総合センターにおける平成10年度魚病診断状況(診断件数)

項目		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	
ア ユ	ナグビブリオ病						2	3							5	
	冷水病		4	3	2	3					4	6	3	4	29	
	細菌性鰓病		1											1	2	
	シュートモナス症		3	2	4	1	2	3	2		3	7	3	3	33	
	シュートモナス症+冷水病		1	1				1	1			1	1		6	
	シュートモナス+ギロダクチルス						1								1	
	冷水病+ギロダクチルス		2											1	3	
	冷水病+ギロダクチルス+鰓病						1								1	
	冷水病+カラムナリス病							2	1						3	
	カラムナリス病					2		1							3	
	水カビ病											1			1	
	真菌性肉芽腫症					1		2							3	
	肉芽腫症+シュートモナス症							2							2	
	真菌性肉芽腫症+カラムナリス病						1								1	
	肉芽腫症+カラムナリス+冷水病						1	1							2	
	真菌性肉芽腫症+冷水病						1								1	
	ギロダクチルス症		1												3	4
	不明			1		2					1	1	1	1	4	11
	小計		12	7	6	9	9	15	4	1	9	15	9	15	111	
	コ	カラムナリス病				1										1
イ	水カビ病											1			1	
	・ギロダクチルス症														0	
フ	トリコディナ症					1									1	
ナ	不明		1						1	1	1				4	
類	小計		0	1	1	0	1	0	0	1	1	2	0	0	7	
マ ス 類	IHN														0	
	ウイルス性疾病			1	2		2	2							7	
	ウイルス性疾病+イクチオフォヌス														0	
	冷水病										1				1	
	せつそう病			1	4	1									6	
	せつそう病+連鎖球菌症														0	
	細菌性鰓病			1											1	
	カラムナリス病														0	
	連鎖球菌症			1	1										2	
	連鎖球菌症+イクチオフォヌス									1					1	
水カビ病												1		1		
不明					1	1				1	1	1		5		
小計		0	4	7	2	3	2	0	1	2	2	1	0	24		
合計		12	12	14	11	13	17	4	3	12	19	10	15	142		